新たな地域医療体制構築に向けて
～ささやま医療センターの今後について～

地域医療体制の維持確保に向けて

平成9年10月に国立篠山病院の移譲を受け、兵庫医科大学篠山病院が開院しました。これまで兵庫医科大学には、丹波篠山市の中核病院として、地域医療を担っていただき、市民の医療、健康および福祉に果たしていただいている役割は大変大きいものです。

一方で、令和2年4月には分娩の休止、令和7年4月には外科、産婦人科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、精神科、眼科の6診療科目が休止となり、外来診療科目は内科、総合診療科、整形外科、リハビリテーション科、小児科、放射線科、麻酔科の7診療科目となりました。これは、ささやま医療センターの経営状況が厳しいことに加え、兵庫医科大学病院本院の建て替え費用の増大も影響し、兵庫医科大学全体の経営改善に向けた取り組みが進められていることが大きな要因となっています。兵庫医科大学によるささやま医療センターの長期的な運営が難しくなったことから、令和7年2月に経営移譲を視野に、兵庫医科大学と紀洋会（岡本病院）、みどり会（にしき記念病院）とで個別に協議をされた結果、令和7年6月に兵庫医科大学がみどり会に対して「優先交渉権」を付与され、二者での経営移譲に向けた協議が始まりました。

その協議の過程において、みどり会から、ささやま医療センターや、ささやま老人保健施設等の土地、建物の不動産、医療機器等の固定資産について、みどり会が兵庫医科大学から購入するのではなく、市が土地、建物、医療機器等を購入し、みどり会がそれを市から賃貸借して病院運営を行い、市民に医療を提供したいとの要望がありました。

兵庫医科大学からもその仕組みが実現しなければ、みどり会への経営移譲が非常に困難になるとの申し入れもありました。市としては、このスキームを受け入れるには、相当な財政負担が生じ、市の財政状況から非常に厳しい提案でしたので、慎重に時間をかけて検討してきましたが、「ささやま医療センター」の存続を最優先することが、市民の皆さまの医療を守ることにつながると考え、協議を行ってきました。

経営移譲、基本合意へ

そうした中、本年2月6日に丹波篠山市役所において、市、兵庫医科大学、みどり会の三者で、ささやま医療センターの経営移譲に向けた基本合意を締結しました。この基本合意は、今後、ささやま医療センター等の譲渡、賃貸借等の取引を進めるための基本的な枠組みを確認するもので、最終契約に向けて協議を進めるための合意となります。

基本合意書締結式では、兵庫医科大学の野口光一副理事長は「国立篠山病院の移譲を受けてから28年間、丹波篠山の地で医療を続けてきました。今後は、兵庫医科大学としても、最長3年間は医師派遣をはじめ、いろいろな形で協力し、みどり会が丹波篠山の医療を支えられるようにサポートしていきたい」と話されました。

また、みどり会の井手通雄理事長は「これまで地域医療の中核として、市民の皆さんの命と健康を支えてこられたささやま医療センターの役割はとても大きいと思います。医療を取り巻く環境が大きく変化する中、これまでと同様に市民の皆さんが医療を受けられるという安心を守ることが何より大切です。市民の皆さんにとっても、みどり会に経営移譲して良かったと思ってもらえるように努力していきたい」と話されました。

7月の移譲に向けて

今後は、本年2月末を目途に兵庫医科大学と土地・建物等の買取価格、およびみどり会との賃貸料に関する協議・交渉をまとめ、市、兵庫医科大学、みどり会の三者による最終合意を行います。そして、みどり会によるささやま医療センター等の運営開始について、7月1日を目標に取り組んでいきます。

これまでささやま医療センターが担ってこられた役割をみどり会が引き継がれることに対して、できるだけの協力は必要であると考えています。加えて、市内で医療、介護の中心的な役割を果たされている紀洋会に対しても、同様に協力は必要と考えています。みどり会、紀洋会の2法人が中心となって、市の医療や介護を支えていただくことを願っています。

これまで協議が続けられてきた兵庫医科大学ささやま医療センターの経営移譲について、2月6日に市と兵庫医科大学、にしき記念病院を運営する医療法人社団・みどり会の3者において、基本合意書を締結しました。

今回は、これまでの経緯と、合意書の内容および今後のスケジュールについて、お知らせします。

問い合わせ　長寿福祉課☎552-5346

経営移譲にかかる基本合意書を締結した兵庫医科大学・野口光一副理事長とみどり会・井手通雄理事長、酒井隆明市長（左から）

基本合意書の概要

- ささやま医療センターやささやま老人保健施設等の事業を兵庫医科大学からみどり会へ譲渡
- ささやま医療センターやささやま老人保健施設等の不動産を兵庫医科大学から丹波篠山市へ譲渡
- ささやま医療センターやささやま老人保健施設等の医療機器等の固定資産を兵庫医科大学から丹波篠山市へ譲渡
- 丹波篠山市はみどり会に対し、取得した不動産を賃貸し、みどり会が施設を運営。固定資産についても丹波篠山市がみどり会に賃貸等
- ささやま医療センターで勤務する職員の雇用は、みどり会は継続勤務を希望する職員を原則として引き継ぎ、勤務条件も可能な限り維持するよう努める

現在まで親しまれてきた「こんだ薬師温泉ぬくもりの郷」は「道の駅こんだ温泉ぬくもりの郷」として生まれ変わります。

今回は、道の駅化への経緯と施設の改修概要などについて紹介します。

問い合わせ　地域整備課☎552-5025／農都政策課☎552-1114／商工観光課☎552-6907

パース① 食品加工直売所

温泉 × 道の駅!?

2027年、今田に「道の駅」が誕生します

なぜ、今田に道の駅？

道の駅整備に係る全体構想を立案する中で、広大な敷地や食品加工直売所、レストラン、農産物直売所がある「こんだ薬師温泉ぬくもりの郷」を道の駅候補地としました。何よりも大きな決め手となったのは、「現在の来訪者数」と「温浴施設を併設する強み」です。

また、姫路から亀岡を結ぶ国道372号沿いに道の駅はなく、当国道の中間地点に位置していることから、道路利用者の貴重な休憩場所となります。

さらに、複数の高速道路のインター出入口から近く、来訪者のアクセスにも適しているため、ファミリー層や、都市圏から多世代の来訪者が見込め、今以上に地域のにぎわいが期待できます。

整備計画について

★食品加工直売所

食品加工直売所への出入口を全面的にスライドドアへ改修。前面にはデッキテラスを配置し、高台立地を利用した眺望を楽しめる空間を創設します。また、トイレと地域の情報発信コーナー、授乳室とおむつ交換ブースを併せて設けます。パース①

★レストラン・農産物直売所

道の駅オープンにあわせ、コロナ禍以降休館していたレストランの再開に向け、内装改修を計画します。パース②

また、レストランと隣接した農産物直売所において、販売や陳列スペースをリニューアルするなど、レストランと農産物直売所の一体的な改修を計画しています。パース③

地域の農産物を活用したお食事メニューの開発など、地域資源を活用した取り組みも検討しています。

★休憩・交流場所

食品加工直売所、農産物直売所などの建物に囲まれた中心部分は、路面の整備や自然木の伐採・剪定（せんてい）などの広場改修を行い、来訪者への休憩や交流場所として整備し、各種イベント開催時への活用を図ります。

★駐車場や動線の整備

近隣の国道と県道からのアクセス誘導を行い、既存駐車場の改修と大型車両も利用できる新たな進入道路や、農産物直売所への専用経路を整えるなど、車両動線の確保により、市内外から多くの来訪者をお迎えします。

道の駅って？

道路利用者への安全で快適な道路交通環境の提供や地域の振興に寄与することを目的とした、自由に立ち寄れる休憩施設であり、地域の魅力発信としての効果発現施設としても期待されています。

道の駅登録のために必要な機能

①休憩機能（24時間使用できる駐車場とトイレ）
②情報発信機能（道路情報や地域の情報を提供）
③地域連携機能（地域振興を目的とした施設）

パース② レストラン

パース③ 農産物直売所

— 道の駅化スケジュール —

			令和８年									令和９年		
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
建築工事	食品加工直売所	内装改修		→	→	→	→	→	→	→				
	農産物直売所	内装改修				→	→	→	→	→	→	→		
	レストラン	内装改修				→	→	→	→	→	→	→		
土木工事	交流広場	路面整備・高木伐採	→	→							→	→	→	
	駐車場	改修							→	→				
	道路（園内含む）	新規整備ほか	→	→	→	→	→	→	→					
	案内表示	国道・県道ほか								→	→	→		
登録業務	道の駅申請・協議		→	→	→									
	道の駅登録				★									

令和８年度から各省の交付金を活用し、順次整備工事を進め、令和８年度末の道の駅オープンをめざします。併せて、道の駅登録への申請などの協議・調整を行います。

多くの人に愛される道の駅をめざして

始まりは、令和2年。市職員によるプロジェクトチームが発足し、同チームがまとめた報告書を基に道の駅化について検討してきました。

道の駅は、地域とともにつくる個性豊かなにぎわいの場。平成5年に道の駅制度が創設されて以来、全国各地に広がり、現在丹波篠山市は兵庫県内で37駅目の登録をめざしています。

こんだ薬師温泉ぬくもりの郷は、市民の皆さんを中心に温浴施設として親しまれ利用されているほか、レストランや宴会場は地域の行事やイベントなどさまざまな場面で活用され、気軽に集える場所として愛されています。今後は地域が潤う場所となるように市内外から訪れていただき、誰もが心から楽しめる場所として、道の駅登録・整備を行います。

市民や来訪者に愛され、多くの人が集い訪れたくなる癒やしの空間として、丹波篠山の素晴らしい景観と地域資源を活用し、市外との交流人口・関係人口の増加による地方創生が生み出す地域活性化の拠点となる道の駅をめざします。